

令和5年度 学校評価(年度末) まとめ

4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない

領域	重複項目	具体的な取組		教員 (53)	生徒 (331)	保護者 (412)	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議員による指導助言
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1	学校ホームページを適切に更新し、必要な情報を提供する	3.30	2.83	3.02	教務情報	校外向けWebページは北高ダイアリーを中心に新しい情報を速やかに公開・提供できるよう努力している。校内向けのWebページは運用の中心を学年で移行し、学年のスキルや必要に応じて活用して頂いている。今後、記事の作成を複数の教員で行えるように、著作権や肖像権に関する法や県の指針に沿った意識・知識を教師間に広める方法を検討し実施していきたい。	・「坂道を上っても通いたくなる学校」として、魅力づくりが必要。よりPRしていただきたい。 ・定員割れの問題。立地条件もあるが、私学だったら間違なくスクールバスを出している。検討してみては。
		2	地域の中学生・保護者の期待に応え、学校説明会を充実したものにする	3.36			総務	今年度はほぼコロナ禍以前の形でこれまで同様、「北高を知る」「北高を体験する」「情報を提供する」の目的で開催ができた。全体会では生徒を前面に出したかたちで、本校の魅力を説明することができた。第2回では体験授業も開催でき本校の魅力を発信できた。今後は更に説明会の内容を充実させて、本校をアピールする方策を模索していきたい。	・生徒の回答数が少ない。学校生活に前向きにな生徒のみが回答していて、結果が上振れしていないか。アンケート方法に改善を。 ・先日、PTAと生徒会の懇談会を行なった。今年の生徒会は意識が違う。行動力がある。北高の人気を上げたいいろいろ検討していた。SNSや映像での広報、母校へ赴いて口コミアピールをしたいと考えているようだ。
	危機管理体制の確立	3	避難訓練やその他防災に関する教育を通して職員・生徒の防災に対する意識の向上を図る	2.72	2.89		総務	今年度も昨年度同様、避難訓練は教科担当による説教で実施し、基本の経路確認を行った。今後、休み時間などの様々な状況下での避難訓練を設定していきたい。1月1日発生した能登半島地震を受け、3学期の始業式にもう一度防災への意識を高めるとともに黙とうをささげ、震災を風化させないよう努めた。今後は防災マニュアルの見直しと職員向けの防災研修を行っていきたい。	・コミュニケーションすみれの地域フェスティバル、令和6年度は実施をしたい。コロナ禍前は、吹奏楽部・演劇科の発表、総合的な探究の時間の代表者発表、司会のボランティアなどが参加してくれた。是非、よろしくお願ひしたい。
		4	職員間の連携をとり、いじめの防止・早期対応を組織的に行う	3.23			生徒指導	いじめアンケートの活用は勿論のこと、担任の気づき、面談などを通じて、相談しやすい雰囲気づくりに務めた結果、早期発見につながった。「ミマモルメ」を活用しての配信により、保護者の手元にも良く届くように改善を試みた。	・(中学生の保護者からみて)教居が高い学校と思っていたが、勉強も部活動も楽しんでいることが分かった。文化祭などの学校行事において、中学生向けの日を設けるなど、北高をもっと知つてもらえる機会を設けるといいのでは。 ・中学生は、高校生活に対して不安が多い。授業など勉強について行けるのか気になっていい。外部の人が知る機会が少ない。もっと発信できないか。
	地域・家庭・関係機関との連携	5	学校・学年・学級の取組について適切に情報提供し、保護者との連携を深める	3.28		2.89	学年	(1年) 三者面談、保護者会に加え、適宜保護者との連絡、面談を行うことで保護者と学年・学級の情報を共有し、相互理解に努めた。 (2年) 三者面談、保護者会、学年通信の定期的な発行をはじめ、細目に電話連絡や面談を行うことにより保護者と情報を共有し、相互理解に努めた。 (3年) 三者面談、保護者会、学年通信をはじめ、適宜保護者との電話連絡、面談を行うことで保護者と情報を共有し、相互理解に努めた。	・3年生が予想以上に伸びた。子どもの成長力、先生方の指導力・教育力のおかげ。よい結果に結びついている。
		6	学校評議員会や様々な学校行事を通して、地域との連携を深める	3.28		2.91	教頭	学校評議員会や生徒指導部の登下校指導、PTAとの連携等を通して、地域の理解を得られるよう努めた。2年ぶりに行なわれたボランティア清掃は、地域との連携を深めると共に、地域・ふるさとへの愛情を育むよい機会となった。	・探究学習、プレゼンテーション能力の育成、ありがたい。推薦入試の合格者が増えていることも、よい方向につながっている。 ・変化の激しいこの時代、自らが答えを探す新しい学力が必要。(先ほど報告があった)関テレしまで直接行って調査を行なった生徒のように、自ら答えを探すこのような力の育成が大切だ。 ・課題の量が減っているという話を生徒から聞いた。 一ティーチングからコーチングの時代へ。課題の量は減っても質を高めて課している。
	職員の授業力・資質の向上	7	ICT教育の推進等にも対応し、様々な工夫を重ね、授業改善に努める	3.09	3.02		教務情報	Office365に加え、ロイロノートの利用を開始した。また、来年度に向けて、教員用のiPadを一部の教員に配布し、授業等で積極的に利用して顶いた。ロイロノートは、利用しやすい教科では、かなり積極的に取り入れられてる。Teamsは、ほぼ全教科で、當時、様々な形で利用し、効果的な指導に役立てていている。ICTの活用をテーマとした研究授業も実施した。来年度以降も、より効果的なICT活用法を研究していく予定である。	・垫に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
		8	新学習指導要領や大学入試制度の改変に対応しつつ、教科指導力の向上を図る	3.13			教務情報	来年度の3年生から、共通テストに情報Ⅰが加えられることから、新3年普通科文系に「情報Ⅱ」を設定することとした。また、理系、GS科・演劇科については、授業外で対応できる方策を検討中である。今後、各教科の授業科目内で、探究的な内容の学習を取り入れていく指導方法を充実させていくことが課題である。	・3年生が予想以上に伸びた。子どもの成長力、先生方の指導力・教育力のおかげ。よい結果に結びついている。
	すべての生徒の学力向上	9	計画的に授業・補習・小テストなどを実施し、生徒の学力を向上させる	3.34	3.07	3.03	学年	(1年) 基礎学力の定着をはかり、計画的に補習、補充、小テストに取り組めた。 (2年) 基礎学力の定着のため、計画的小テストの実施、補習・補充の実施を行えた。 (3年) 生徒の学力向上のため、時期に応じた計画的な小テストの実施、進路別の補習の実施を行えた。	・垫に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
	学力向上と進路実現	10	生徒の学力向上に向け、量・質のバランスに配慮した課題を課す	3.06	2.68	2.95	学年	(1年) 生徒への自学自習を促すことができるよう課題の量に配慮できた。 (2年) 教科間の連携を密にすることにより、生徒それぞれにとってより効果的な質・量の課題を課すことができた。 (3年) 各自の進路に応じた課題を、適切な時期に課すように各教科で努力した。	・塾に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
		11	課題の提出状況や「家庭学習の記録」を通して、家庭学習の実態を把握し、学習指導に生かす	2.92			学年	(1年) 一週間を見通した学習計画を立てその振り返りを行うことにより学習習慣の定着をはかった。 (2年) 生徒が自動的に学習活動に取り組めるように、その定着をはかりつつ、自己を見直すきっかけができるよう活用した。 (3年) 学習のリズムを維持し、時間の使い方を自己管理すると共に生徒の変化に気づく一助となつた。	・塾に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
	総合的な探究の時間の充実	12	自らの興味・関心に応じてテーマを設定し、探究活動の手法、考え方、知識等を身につけさせる	3.17	2.99		教務情報	今年度から、「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」を組み合わせた週2単位の授業を、普通科2年生向けに実施した。前半は、探究活動に必要な基礎的な知識や技能・考え方を学習し、後半から、グループ別に探究活動を実施した。積極的に放課後に調査・研究を行ったり、校外での調査やインタビューを行つなど、充実した活動内容となつた。今後も、より深い探究的な学びを実現するために、実施内容を見直し、教員の指導力の向上を図りたい。	・塾に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
		13	協働性を高め、伝え、発表する力・プレゼンテーション能力の育成を図る	3.15	3.14		教務情報	グループ別での探究学習では、協力して調査・研究を行ない、学習を深めることができた。成果をまとめ、中間発表、ゼミ発表を実施し、プレゼンテーション能力の育成につながることができた。また、3月には、GS科の課題研究中間発表と同日に、探究活動のゼミ代表発表会を実施する予定である。	・塾に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。
進路指導の	14	生徒個々が将来の姿を考え、自己実現をめざす教育を実践する	3.15			進路	進路ガイダンスや大学の模擬授業などは、予定通り実施できた。進路関係の行事だけでなく、日常の生活や様々な活動を通して、高校卒業後の進路だけでなく、その後の人生設計についても考えらるよう促していきたい。	・塾に行っている生徒が増えた。かつては課題が山のように出で、塾に行く生徒はほとんどいなかつた。総合選抜から複数志願選抜に変わり、生徒の質も変わってきたのか。	

令和5年度 学校評価(年度末) まとめ

4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない

領域	重 要 指 标	具体的な取組			教員 (53)	生徒 (331)	保護者 (412)	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議会による指導助言
	充実	15 面談や様々な進路に関する働きかけを通して、早期から進路に対する生徒の意識を向上させる	3.32	3.12	3.17			指導	担任による個人面談や、学年全体での講演会などはできたが、学級単位での進路に関するホームルームの時間が十分にとれていなかが現状である。クラスで進路について考える時間が確保できるよう努めたい。	
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	16 【演劇科】「朝説」や特別講義などを通じて、読解力や思考力を向上させる	3.04	3.05	3.28			演劇科	「朝説」の実施により主体的な読書習慣の定着を図った。自ら考えることや、考えたことをきちんと言語化する機会として、「劇作実習」などの特別講義や校外学習等の感想文への取り組みをさらに有効に活用したい。	・演劇科の定員割れはどのような状況にあるのか。生徒は充実した学校生活を送っている。演劇科での学びを、しっかり広報して欲しい。魅力発信を。
		17 【演劇科】専門科目などを通じて、表現力・コミュニケーション能力を育成する	3.42	3.57	3.60				今年度は活動に対する制約が緩和され、生徒の活動も活発なものになった。一方で、制約の中で過ごしてきたため心身の解放に慣れていらない生徒もあり、配慮や工夫が必要である。今後も慎重に取り組んでいきたい。	・コミュニケーション能力、世界に羽ばたくためにも必要。おとなしい生徒が多い印象がある。
		18 【演劇科】特色ある学びを通して、芸術への愛情を深め、調和のとれた人格の育成を図る	3.30	3.57	3.43				今年度も、さまざまなジャンルの作品を校外学習で鑑賞することができ、興味関心の幅を広げることができた。創作活動の一助となるのはもちろん、進路実現に向けて考える機会にもなるような学習計画の検討を、継続していきたい。	
創造的な校風の樹立	GS科の充実	19 【GS科】海外交流や英語を活用した取組を通して、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させる	3.40	3.59	3.68			GS科	シートル研修を再開し、2年生全員(7月)と3年生希望者(8月)が参加した。学校設定科目「GSⅢ」等で英語科教員の協力を得た。GS科単独で海外交流を行う必要が生じてきている。	
		20 【GS科】専門的な理数科目の授業や科目横断型授業を通して、自らの将来像を深く考えさせる	3.43	3.72	3.54				GS科の学校設定科目「GSⅠ」「GSⅡ」「GSⅢ」を通じて深い学びにつながる探究的活動・課題研究を充実させることができた。研究内容を活かして大学で学びたいことが明確になり、推薦入試を受験する生徒が増加した。	
		21 【GS科】高大連携授業や課題研究等の取組を通して、思考力・判断力・表現力を育成し、学ぶ意欲を高める	3.51	3.61	3.76				SSH事業の利点を活かし、様々な場面で大学・企業・博物館等との連携を行うことができた。探究活動を1年次から取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成を図った。	
ふるさと貢献活動事業の充実	22 地域との連携や特別支援学校等との交流を通して、思いやりの心を育む	3.09	2.81	2.94			総務	宝塚市立養護学校等の交流では4年ぶりに対面交流を行った。1年生の有志21名が養護学校へ赴き、ゲームや歌、ダンスの交換を行った。生徒たちは直接触れ合うことでより相手を知ることができた。事前事後の指導を充実させることでさらに良いものにしたいと考えている。来年度は文化フェスティバルへの招待も復活させてより交流を深めていきたい。		
	国際交流事業の充実	23 国際理解教育が充実しており、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させることにつながっている	3.02	2.66	2.59			国際理解教育	今年度も大阪大学留学生を招いての授業見学と交流会、台湾の曙光女中とのオンライン交流会を実施した。3月にはJICA関西訪問も予定している。また、PTA会員対象の英会話教室も好評であった。コロナのため、オーストラリアとマレーシアにある姉妹校との相互訪問が中断しているが、早期の再開を目指して準備に努めている。GS科においては3年ぶりにシートル研修を実施した。	
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	24 登下校のマナーや校門指導・挨拶や身だしなみの指導を通して、「高校生にふさわしいマナー」を身につけさせる	2.91	3.18	3.24			生徒指導	挨拶や返事、時間厳守、清掃を生徒指導の3本柱に掲げ、基本的な生活習慣を身につけさせる。自主・自律の精神を基本に、自ら考えて行動できる力。その根底にあるのが「挨拶」と考える。	・教員と、生徒・保護者の評価が大きく異なる。ギャップがある項目については、なぜそのようなギャップが生じているのか、しっかり評価検証を行うことが大切。
	人権教育の推進	25 人権HRやその他様々な機会において、人権意識の向上を図る	2.77	2.81	2.87			人権推進	1学期に2度外部講師を招いて職員修会を開いた。各学年、年1回の人权HRを設定し、2・3・学期に実施した。また、職員への啓蒙を目的として定期的に人権通信を発行した。	・北高生の通学路を車で通ると、生徒たちは車の気配で道を空けてくれる。参考書を読みながら歩いているが、車にぶつからないのが不思議なくらい。
	図書館利用の推進	26 図書だよりの配布をはじめ様々な取組により、読書活動への興味関心を高める	3.68	2.49	2.63			総務	毎月「図書だより」と「新着図書案内」、学期末には特別号を発行した。他にも図書委員が中心となり、「図書委員便り」をNo. 6まで発行した。また毎年秋に行なっている読書週間行事も、図書委員を中心に掲示物を作成し、展示了。来年度も、図書委員を中心に積極的に図書室を運営していきたい。	・LGBTQや多様性について、理解が深まることはとても大切。
	保健・健康教育の推進	27 保健だよりの配布およびその他様々な機会において、生徒が自分自身を大切にする心の育成を図る	3.30		2.78			保健	保健だより(すみれ)を毎月発行した。今年度は新型コロナウイルス感染症だけでなく地域で流行している感染症や日常生活での健康管理について情報発信した。今後もテーマの精選、内容の充実を図りたい。講演会についても、命を大切にできる・自尊感情を高めるような内容で企画したい。	・バスの乗車のマナー、地域の人たちに「どうぞ」と優先的にのせててくれる。感じが良い。
		28 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題に対して組織的に対応する	3.32		2.88			保健	カウンセラーの複数体制とカウンセリングの回数が増えたことで、相談者のニーズに合った機会を提供できた。今後も職員とカウンセラーとの連携をすすめ、教育相談活動の円滑な実施を図りたい。	
	生徒会活動の充実	29 学校行事・委員会活動・その他様々な場面において、生徒の主体的・協働的な態度を養う	3.34	3.26				生徒指導	ここ数年、生徒会役員に立候補する生徒が増加傾向である。生徒会活動は活発になり、生徒会執行部、生徒、教師の連携をしっかりとり、更に、生徒が主体となって学校運営に携われる様にしていきたい。また、あらゆる行事をコロナ過前の状態、更には発展できるよう努力している。	
	SSHによる学校教育活動の活性化	30 SSH指定校として、特色ある教育活動を行う	3.26	3.05	3.15			SSH・GS科	SSH主対象生徒であるGS科に対して学校設定科目「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を実施している。このような探究的活動(課題研究)に特化した授業はSSH指定校でなければ実施できない教育活動である。同じく主対象生徒である自然科学系の部活動の研究活動に対しても支援を行い、研究内容の質が向上升てきている。	・ペクトルあわせができる。
	31 SSHを、学校の教育活動に効果的に生かす	3.19	3.04	3.22			SSHの成果普及として他校生対象に「リサーチプラン研修会」を行った。普通科の「総合的な探究の時間」に講師を招聘し、講演を行った。また、全校生対象にSSH校対象のイベントやGS科の講義や校外学習の募集を呼びかけ、少人数ではあったが参加者があった。年度末に普通科とGS科で合同の発表会を行い、演劇科生徒も参考する「探究の日(仮称)」を設定することができた。		・SSHⅡ期目に向けて、しっかり取り組んでいただきたい。	
	SSHによる知的探究心の育成	32 SSHを、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につなげる	3.32	2.95	3.10				学校設定科目「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を通じて、知的探究心の育成を図った。特に「GSⅠ」においては、知的探究心の育成に繋がる教材開発を行なった。生徒から各教材の事後評価アンケートも行き、教材の精選と改善に繋げている。	

令和5年度 学校評価(年度末)まとめ

4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない

領域	重 標 点 目	具体的な取組		教員 (53)	生徒 (331)	保護者 (412)	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議委員による指導助言
		実施回数	実施回数						
カリキュラム実現度	SSHによる学力向上	33	SSHを、学力の向上につなげる	3.25	2.92	3.05		GS科において特色ある授業(「GS I・II・III」)を行っている。学力の定義や学力向上を測る指標は難しいが、前年度のGS科卒業生において、いわゆる難関国公立大学の合格者数は、例年を上回る実績を挙げることができた。また、本校生の研究については外部の科学コンクールの評価(受賞)は高く、学力は向上に繋がっていると判断している。	
	宝塚北高校に入学して良かったと思う	34		3.18	3.48	全体	(全体評価)		・入学して良かったかどうか、主観の問題。卒業すると悪いものから忘れ、いいものだけが残る。卒業後は4が増える。大人になればいい学校だったと思えるはず。心配しなくてもよい。